

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	島根大学
設置者名	国立大学法人島根大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
法文学部	法経学科	夜・通信	72	0	39	111	13	
	社会文化学科	夜・通信			51	123	13	
	言語文化学科	夜・通信			59	131	13	
教育学部	学校教育課程	夜・通信		2	189	263	13	
人間科学部	人間科学科	夜・通信		12	88	172	13	
医学部	医学科	夜・通信		0	32.7※	104.7	19	
	看護学科	夜・通信			142	214	13	
総合理工学部	物理・マテリアル工学科	夜・通信		3	31	106	13	
	物質化学科	夜・通信			31	106	13	
	地球科学科	夜・通信			31	106	13	
	数理科学科	夜・通信			31	106	13	
	知能情報デザイン学科	夜・通信			31	106	13	
	機械・電気電子工学科	夜・通信			31	106	13	

	建築デザイン学科	夜・通信			38	113	13	
生物資源科学部	生命科学科	夜・通信		6	9	87	13	
	農林生産学科	夜・通信			33	111	13	
	環境共生科学科	夜・通信			17	95	13	
(備考) ※医学部医学科の授業時間数は 5370 時間								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表を本学 HP に公表し、以下より授業内容を参照可能とする。

https://www.shimane-u.ac.jp/education/school_info/lectures_data/

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	島根大学
設置者名	国立大学法人島根大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/university_profile/trustee/

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	前国立大学法人国立大学法人九州工業大学 理事・副学長	2020.4.1～ 2021.3.31	大学経営・財務，事務総括
非常勤	株式会社ミック 代表取締役社長	2018.4.1～ 2021.3.31	社会・産学連携
非常勤	日立金属株式会社 冶金研究所 所長	2020.4.1～ 2021.3.31	地域産業創生
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	島根大学
設置者名	国立大学法人島根大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。 (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 本学の授業シラバスについて、毎年1月から3月中旬の間で、担当教員が作成し、3月中旬以降公表している。なお、松江キャンパス開講授業についてはウェブシラバスとして、医学部開講授業については、PDF版を掲載しており、大学内外から閲覧可能である。その項目については、授業の目標や計画、成績評価方法を含め、学生が準備学修を進めるために必要な項目が設定されている。 また、シラバスの作成にあたっては、次年度のシラバス登録開始前に「学生の学びの質を高めるために—シラバスから始まる授業改善—」を全教員に配布し、シラバスの各項目についてどのような記述をすべきか、FDの観点から指導を行っている。	
授業計画書の公表方法	https://www.shimane-u.ac.jp/education/school_info/lectures_data/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。 (授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 本学の試験等の成績評価は、学則において、「成績の評価は、秀、優、良、可及び不可とし、秀、優、良及び可を合格とする」旨定め、その基準については、島根大学における成績の評価に関する取扱要項において規定している。これらの基準に則り、平常成績及び出席状況等を考慮して成績評価を実施している。成績評価は100点満点法であり、成績を秀(90～100点)、優(80～89点)、良(70～79点)、可(60～69点)、不可(59点以下)の5段階に区分し、秀、優、良及び可を合格として単位を認定している。これら成績評価の区分・単位の認定基準については、各学部の「履修の手引き」に記し、学生に周知している。 また、各授業における成績評価の方法及び基準については、授業科目の担当者がシラバスに明記し、初回授業時に評価基準を周知するなどしている。成績評価方法については、期末試験やレポート、プレゼンテーション、ルーブリック評価などを用い、授業の達成目標に対する学生の達成度を適切に測定できる措置を講じるよう、教員向けの文書等で促すとともに、FD研修会等においても教員は研鑽を積んでいる。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 平成29年度より、教学IRデータに基づいた修学支援のための学習予測システム「WILL BE」を構築し、構築されたデータの解析に基づいた成績の分布状況の把握をはじめ、学生への修学支援を実施するなどシステムの運用を行っていたが、令和元年9月より同システムを学務情報システムに統合して活用している。 また、本システムを活用して、学生の学修状況をより客観的に把握できるようにし、教員の学修指導をよりきめ細やかに行うため、GPA制度を導入しており、履修登録した科目毎の5段階評価を、(秀=4・優=3・良=2・可=1・不可=0)の4から0までの点数(GP: Grade Point)に置き換えて単位数を掛け、その総和を評価を受けた単位数の合計で割った平均点をGPAとし、学生は学務情報システムにアクセスすることにより、各自でGPAを確認できることとなっている。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.jimu.shimane-u.ac.jp/web2/gakujyo/gakusei/index.html
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 卒業については、島根大学学則において在学すべき年数以上在学し、かつ、学部所定の教育課程を履修し修了した者には、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する旨を定めている。 学位授与方針で定める能力・資質については、教育課程の編成方針に反映され、カリキュラムとして体现されている。カリキュラムを通じた学習成果である卒業の認定について、その基準については、各学部規則に規定し、学生に基準を記載した「履修の手引」を配布するとともに、オリエンテーションや窓口等での学生相談などの場で成績評価及び卒業認定の基準に関する説明を適宜行っている。各学部で所定の教育課程を履修(修了)した者に対しては、単位認定・卒業認定のための卒業認定会議及び教授会を開催し、その議を経て学長が卒業を認定している。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/information/education_announce/kyouiku.html 「学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準」参照

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	島根大学
設置者名	国立大学法人島根大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.shimane-u.ac.jp/finance/financial_report/
収支計算書又は損益計算書	https://www.shimane-u.ac.jp/finance/financial_report/
財産目録	
事業報告書	https://www.shimane-u.ac.jp/finance/financial_report/
監事による監査報告(書)	https://www.shimane-u.ac.jp/ files/00181051/5H30kanjikannsa Houkokusho.pdf

2. 事業計画 (任意記載事項)

単年度計画 (名称: 年度計画	対象年度: 2020)
公表方法: https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/management/target/	
中長期計画 (名称: 中期目標・中期計画	対象年度: 2016~2021)
公表方法: https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/management/target/	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/management/target/second_term.html
--

(2) 認証評価の結果 (任意記載事項)

公表方法: https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/management/self_check/evaluation/
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 法文学部
教育研究上の目的(公表方法: https://www.hobun.shimane-u.ac.jp/gakubu_syoukai/)
(概要) 法文学部では、次の 4 項目を教育・研究の目標として掲げている。 1. 先端的研究および学際的総合的研究の推進 2. 創造的・実践的能力を有する人の育成 3. 地域社会との連携の強化 4. 国際的に開かれた学部
卒業の認定に関する方針(公表方法: https://www.shimane-u.ac.jp/education/faculty/law_lit_menu/DPCPAP01/)
(概要) 学科毎にディプロマ・ポリシーを定め、大学のホームページ及び学生に配付する『履修の手引』において公開している。 各学科の学士課程においてディプロマ・ポリシーに掲げる能力を身につけた者には、次の学位を授与する。 法経学科：学位「法経」 社会文化学科：学位「社会科学」 言語文化学科：学位「文学」
教育課程の編成及び実施に関する方針(公表方法: https://www.shimane-u.ac.jp/education/faculty/law_lit_menu/DPCPAP01/ https://www.shimane-u.ac.jp/education/school_info/curriculum/curriculumtree.html)
(概要) 学科毎にカリキュラム・ポリシーを定め、大学のホームページ及び学生に配付する『履修の手引』において公開している。 更に、コース又は研究室毎にカリキュラム・ツリーを作成・公開し、入学から卒業(ディプロマ・ポリシーの達成)までの履修について、体系的に明示している。
入学者の受入れに関する方針(公表方法: https://www.shimane-u.ac.jp/education/faculty/law_lit_menu/DPCPAP01/)
(概要) 学科毎に求める学生像、入学者選抜の基本方針、各選抜方法における求める力(評価する力)をアドミッション・ポリシーとして定め、大学のホームページ及び入試要項等において公表している。

学部等名 教育学部
教育研究上の目的(公表方法: https://www.shimane-u.ac.jp/education/faculty/edu_menu/)

(概要) 21世紀の教育改革をリードする山陰地区唯一の教員養成専門学部です。現代的教育課題や、今後の地域の少子化傾向などに対応し、「小中免許併有」を目指す“これからの時代に必要とされる教師”を育てます。また、1000時間体験学修等の独自の教師教育プログラムにより、教職への限らない情熱と様々な教育的課題に対応できる優れた教育実践力を備えた教員の養成を目指しています。
卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.shimane-u.ac.jp/education/faculty/edu_menu/DPCPAP02/edu01.html https://www.edu.shimane-u.ac.jp/gakubu_rinen/1-1_rinen/）
(概要) 基準となる単位数を修得し所定の体験時間数を経験することで、次の資質・能力を身につけたと認められる学生に対し卒業を認定し学位（学士（教育学））を授与します。 《普遍的教養》の分野 《教育実践力》の分野（学習者を理解し、身につけた知識や技能で教育を実践する力） 《対人関係力》の分野（相手や目的に応じて適切なコミュニケーションを行う力） 《自己深化力》の分野（必要な情報をさまざまな方法で探したり発信したりして、自己の知識や能力を深める力）
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.shimane-u.ac.jp/education/faculty/edu_menu/DPCPAP02/edu02.html https://www.edu.shimane-u.ac.jp/gakubu_rinen/1-2_gakubu_curriculum/）
(概要) 1・2年次では「基礎科目」、「教養育成科目」、及び「専門共通科目」を中心に学びながら、幅広い視野・基礎的知識・技能など、豊かな教養を身につけます。3年次以降は、「専門教育科目」を中心に各自の主専攻・副専攻に応じて専門的に学び、4年次にはそれらの学修の成果を踏まえて「卒業研究」に取り組みます。また、4年間を通じて充実した「1000時間体験学修」を並行して行い、実践的な力を養います。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.shimane-u.ac.jp/education/faculty/edu_menu/DPCPAP02/edu03.html）
(概要) 特色ある教育課程のもとで教師になることを希望する、次のような学生を受け入れます。 1. 高等学校までの基礎学力を備えており、向上心をもって主体的に学ぼうとする人 2. 豊かな人間性、子どもに対する愛情、教育的情熱を有する人 3. 教師に要求される幅広い教養と深い専門的知識・技能を身につけ、社会の発展に貢献しようとする人

学部等名 人間科学部
教育研究上の目的（公表方法：https://www.shimane-u.ac.jp/education/faculty/ningen/hu_menu01.html?node_id=25021）
(概要) 本学部は、人間の特性を深く理解し、人々がその人らしく生きることができる社会を実現していく人材を育成することを目的としている。そのために、人間を心理的・身体的・社会的側面から多角的にとらえる力、地域実践と科学的思考を往還させる力、他領域の人々と連携する力を身につけた人材を育成することを目指している。
卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.shimane-u.ac.jp/education/faculty/ningen/DPCAPAP18/hu01.html）

(概要) 本学部では、下記の力を身につけていることをもって卒業を認定している。 1. 人間に対する共感的・客観的理解に基づき、他者と共同して人々を支援する地域実践力を身につけている。 2. 人間の心理的側面、身体的側面、社会的側面について幅広い専門的知識を身につけ、人間を多角的にとらえることができる。 3. 他者の知見を客観的に検討し、自己の知見を他者に対して論理的に表現することができる。 4. 持続的な関心を持って、人間のかかえる様々な問題に主体的に関与していこうとする態度を身につけている。 5. 人間がかかえる諸問題を的確に分析する力を身につけている。 6. 人間がかかえる諸問題の解決法を構想し、それを実践する力を身につけている。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.shimane-u.ac.jp/education/faculty/ningen/DPCAPAP18/hu02.html）
(概要) 卒業認定に関する方針に基づき、教育課程の編成及び実施の方針を以下のように定める。 1. 市民としての基礎的な教養を身につけるために、全学共通教育科目を設定する。 2. 地域実践力を育成するため、地域実践基盤科目及び地域実践展開科目を設ける。 3. 様々な人々と共同で問題解決にあたる実践力を育成するため、「インタラクティブ・プレゼンテーション・ミーティングⅠ・Ⅱ・Ⅲ」を必修とする。 4. 人間を多角的にとらえることを可能にするため、学部共通科目を設定する。 5. コース専門科目において、対人関係スキルを育成する授業科目及びリサーチ力を育成する授業科目を設ける。 6. コース専門科目を地域実践基盤・地域実践展開科目と有機的に関連させる。 7. より高度な知識や技能を身につけるアドバンス科目を設定する。 8. 4年次に卒業研究を課し、4年間の学びの集大成を行うようにする。 9. 社会福祉士受験資格、精神保健福祉士受験資格が得られ、公認心理師受験資格を得られるに足る学部教育が受けられるようにする。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.shimane-u.ac.jp/education/faculty/ningen/DPCAPAP18/hu03.html）
(概要) 本学部の求める学生像は以下の通りである。 1. 人間を共感的かつ客観的に理解することに興味・関心をもつ人 2. 社会における人間がかかえる問題の解決策をみだすために主体的に学び、専門性を活かして地域社会に貢献したいという意欲をもつ人 3. 自らを成長させ他者と協働して課題解決に向けて取り組もうとする姿勢をもつ人

学部等名 医学部医学科
教育研究上の目的（公表方法：https://www.shimane-u.ac.jp/education/faculty/med_menu/med_menu100.html）
(概要) 各科目においては、学習の到達目標を明示し、基本的知識と基本的技術を教授すると共に、自学自習を促して高い問題解決能力を育成します。また、科学と情報技術の進歩に対応しそれらを活用できるように、生涯にわたって知的向上を目指す能力を培います。 さらに、患者中心のチーム医療の本質を理解し、その実行に必要なコミュニケーション能力、将来の医療・教育現場での指導能力を培うよう指導すると共に、国際的に

活躍できる能力を養うことを目指しています。
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.med.shimane-u.ac.jp/medicine/outline/dp.html ）
（概要） 学士課程において、「医療人としての適切な判断力・行動力」、「コミュニケーション能力」、「問題解決・自己研鑽能力」、「知識を統合し活用する能力」、「臨床能力（知識・技能・態度を統合し活用する能力）」、「研究への志向力」、「グローバル化への志向力」、「地域医療への志向力」の能力を身につけた者に学位「医学士」を授与する。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.med.shimane-u.ac.jp/medicine/outline/cp.html ）
（概要） 年間の一貫教育を通じ、医の倫理やプロフェッショナリズム及び医師になるために必要な知識、技能、態度を身につけます。
入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.med.shimane-u.ac.jp/medicine/outline/ap.html ）
（概要） 医学部医学科では、以下のような能力を身につけてきた学生を求めています。 1. 高等学校で履修する英語、数学、理科、社会、国語において、入学後の医学部の修学に支障がないレベルの知識を有している。 2. 人のために尽くそうとする明確な意志を有している。 3. 地域医療を担う意欲と使命感を有している。 4. 生命及び人に対する尊厳と倫理観及び理論的な思考力を備えている。 5. 探究心が豊かであり、未知の分野に挑戦しようとする情熱を有している。 6. 異文化や自分と異なる考えを受け入れ、広い視野で物事を判断し思考できる。 7. 自分の意見や考えをわかりやすく言葉や文章で表現できる能力を有している。 8. コミュニケーション能力に長けている。 9. 相手の気持ちを理解するとともに支持し、周囲の人々と協調性を持って行動できる。

学部等名 医学部看護学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.shimane-u.ac.jp/education/faculty/med_menu/med_menu100.html ）
（概要） 広い視野と豊かな人間性を持ち、保健・医療・福祉・教育等の分野で様々な専門職と協働して活躍できる、社会のケアニーズに応え得る人材を育てることを目指します。そのため、卒業時には全員が看護師と保健師の2つの国家試験受験資格を得て、生涯にわたってキャリアを広げていけるよう、保健学と看護学を一体化した統合カリキュラムによる教育を基盤としています。
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.med.shimane-u.ac.jp/kango/outline/diploma_policy.html ）

(概要) 1. 豊かな人間性と高い倫理観を備え、人間、健康、社会・文化に対する深い理解と見識に基づいた看護を提供することができる。2. 科学的探究心に基づき、最新の科学的知見を活用し、主体的かつ論理的に健康問題を解決することができる。3. ライフサイクル、健康レベルに着目し、全ての人々の健康問題を査定し、対象に適した看護を提供することができる。4. 対象者の健康問題の解決のために、保健・医療・福祉の関連領域の専門職と連携・協働することができる。5. 少子高齢化、過疎化、医療の偏在化等によってもたらされる地域の健康問題に対応した看護活動を展開することができる。6. 社会における保健・医療・福祉の充実と発展に貢献するために、広い国際的視野をもつことができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.med.shimane-u.ac.jp/kango/outline/curriculum-policy/）
(概要) 1 年次には必修科目の中で医学科との合同授業を行い、チーム医療の主な担い手としての態度を養う。また附属病院と連携して、病院の看護師が講義や演習に講師・ファシリテーターとして参加することによって、医療現場における最新の技術を学ぶ。看護系大学の卒業時到達目標として挙げられる看護実践能力の到達度について、「看護学実習 Web」という独自の評価システムにより、1 年次から経年的に客観的数値として把握する。「看護学実習 Web」は、自らの看護実践能力の分析を行ったり、以後の実習計画の参考にしたり、またポートフォリオとして印刷して保管することが可能である。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.med.shimane-u.ac.jp/kango/outline/admission_policy.html）
(概要) 将来、社会の人々の命と生活を支える自律した看護専門職を志望する、次のような学生を受け入れる。 1. 大学で学ぶ上で必要な基礎的学力と主体的学習態度を身につけている人 2. 他者に関心を持ち、人間を尊重し、ささえ合い、ともに歩むことのできる人間性豊かな人 3. 知的探究心にあふれ、主体的かつ論理的に問題解決を図ろうとする人 4. 志を高く持ち、夢の実現に向けて弛まぬ努力のできる人 5. 保健・医療に関心があり、将来看護に貢献したいと考えている人
学部等名 総合理工学部
教育研究上の目的（公表方法：https://www.riko.shimane-u.ac.jp/dept/dept.html）
(概要) 1. 専門的基礎学力と総合的視野をもった活力ある人材の育成 2. 特色ある国際的水準の研究の推進 3. 国際交流の推進 4. 地域をはじめとする社会貢献の推進 5. 効率的・効果的で透明性のある学部運営の推進
卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.riko.shimane-u.ac.jp/dept/policy.html）
(概要) 総合理工学部では、学士課程において以下に掲げる知識・能力を身につけた者に学位「総合理工学」を授与する。 1. 豊かな教養や倫理観を持ち、人類社会や地球環境とのかかわりについて総合的に考え、判断できる。 2. 情報収集力、判断力、コミュニケーション能力、チームワーク力、国際的視野を身に

つけ、社会に貢献し、活躍できる。 3. 理工学の専門分野に関する基礎力及び応用力を持ち、理工融合的、総合的視野から分析力、解決力、創造力を発展的に発揮できる。 4. 地域の文化・伝統を理解し、地域あるいは世界に及ぶ課題を、理工学の専門知識を用いて、解決に努め、社会の発展に寄与する能力を身につけている。 5. 修得した専門知識・技術を更に高め、継続して、主体的に学ぶ態度を身につけている。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.riko.shimane-u.ac.jp/dept/policy.html）
（概要） 総合理工学部には、社会の多様なニーズに応えられるよう、17の教育コースがあり、それぞれのコースに、卒業までに修得すべき学習到達目標が定められ人材育成が行われます。 1～2年次に履修する全学共通教育科目は、基礎科目の科目群と、教育成科目の科目群からなります。これらの科目を修得することで、専門教育科目を学ぶための基礎学力を身につけるとともに、社会人として必要とされる教養や倫理観、思考力、語学力、コミュニケーション能力を涵養します。 それぞれの学科の専門教育科目には、1年次に開講される科目のうち、専門を学ぶための導入科目として、初年次教育科目を設けています。専門教育科目の中に、総合理工学部と生物資源科学部から提供する自然科学系学部共通科目の科目群を置き、生物資源科学部より提供される生命科学や農学の科目を履修することで、自然科学の幅広い基礎知識を修得します。 全ての学科教育コースの専門教育科目に、専門分野の基礎となる科目を基盤科目として設け、また、他学科の教員による基盤科目を履修することで、理学及び工学の総合的視野を養います。専門教育科目には、講義形式の科目の他に「実験」「実習」「演習」の科目を数多く設け、実験装置、器具や薬品を用いたり、フィールドワークを行ったことにより、実践力を養うとともに、グループで行う内容も多く含まれており、チームワーク力が身につきます。また、反転授業やその他の能動的授業の推進や大学院生によるTA制度を充実させることで、主体的学習能力が身につくように工夫された授業を提供しています。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.riko.shimane-u.ac.jp/dept/policy.html）
（概要） 「高等学校卒業水準の基礎学力を備えている」を共通とした「求める学生像」を学科毎に定めている。また、一般入試（前期日程・後期日程）では「基礎的知識と思考力を重視」、総合型選抜Ⅰでは「知的好奇心・探求心を重視し、学力の3要素を総合的に評価する」等、学科毎、入試区分ごとに入学者選抜の基本方針を定めている。

学部等名 生物資源科学部
教育研究上の目的（公表方法：https://www.life.shimane-u.ac.jp/gakubu_annai/gaiyo.html）
（概要） 本学部が担うべき社会的責任に対応する「生命」、「生産」、「環境」に焦点を当て、これら3分野をより明確にした「生命科学科」、「農林生産学科」、「環境共生科学科」の3学科により、生命科学、農林生産、食料、農業経営・経済、生態環境に関する幅広い知識と生物資源を有効に利活用できる技術や知識、さらに生態環境を総合的に保全・管理するための知識と技術を有し、国際的視野に立って、これらを活用した産業・地方

自治体に貢献できる人材を育成します。
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.shimane-u.ac.jp/education/faculty/agri_menu/DPCPAP05/life01.html ）
（概要） 生物資源科学部では、学士課程において以下に掲げる能力を身に付けた者に学位「生物資源科学」を授与する。 1. 人間・社会・自然に関する幅広い教養を身につけている。 2. 理学や農学に関わる基礎的な知識を身につけている。 3. 研究の一環として、英語科学論文の内容を理解することができる。 4. 多角的な視点、批判的思考力を備え、各専門分野における課題の解決に主体的に取り組むことができる。 5. 研究の一環として、必要なデータを収集・整理し、それらを解析して結論を論理的に導くことができる。 6. 得られた研究成果を文章や口頭で適切に表現することができる。 7. 社会で活かすことができる専門知識や技能を身につけている。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.shimane-u.ac.jp/education/faculty/agri_menu/DPCPAP05/life02.html ）
（概要） 1. 1年次～2年次では、主として全学共通教育を履修します。 2. 1年次の前期には、それぞれの教育コースで「初年次教育科目」が設けられています。 3. 1年次では、学科・教育コースを問わない学部共通科目として開講される「基盤科目」の中から、それぞれの教育コースで、必修、選択必修、または選択科目に定められた科目を選択して履修します。 4. 2年次以降は、それぞれの教育コースで定められたカリキュラムにそって「専攻科目」を履修します。 5. 「専攻科目」は、各専門分野におけるより高度な専門知識・技能を修得するとともに、批判的思考力や問題の発見・解決能力を涵養することを目的として開講され、教育コース毎に講義、演習、実験、実習を体系的に組み合わせて実施します。 6. 実習系の授業群の中には、地域の恵まれた環境を生かして、附属生物資源教育研究センターおよび各教育コースが開講する多様なフィールド教育科目があります。 7. 4年次には、「卒業研究」を履修します。
入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.shimane-u.ac.jp/education/faculty/agri_menu/DPCPAP05/life03.html ）
（概要） 21世紀を担う多くの若人の中で、水の惑星・緑の地球を大切にする情熱に燃え、「生物、生命、生産、環境」に興味を抱き、真理の探求心が強く、やる気に満ちた諸君の入学を待っています。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.shimane-u.ac.jp/education/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	5 人	—					5 人
法文学部	—	21 人	26 人	9 人	0 人	0 人	56 人
教育学部	—	26 人	19 人	14 人	3 人	0 人	62 人
人間科学部	—	8 人	11 人	5 人	3 人	0 人	27 人
医学部	—	49 人	21 人	13 人	61 人	4 人	148 人
総合理工学部	—	45 人	33 人	9 人	26 人	1 人	114 人
生物資源科学部	—	32 人	36 人	1 人	21 人	0 人	90 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		347 人					347 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://www.staffsearch.shimane-u.ac.jp/kenkyu					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
教員の教育力向上を図り、教育内容・方法の改善を進めるため、学生評価や同僚評価（ピア・レビュー）を核としたF D活動を展開するとともに、全教員を対象にしたF D研修会を年5回開催している。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関する事

[illegible]

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
法文学部	230 人 (100%)	10 人 (4.3%)	192 人 (83.5%)	28 人 (12.2%)
教育学部	170 人 (100%)	20 人 (11.8%)	144 人 (84.7%)	6 人 (3.5%)
医学部	157 人 (100%)	1 人 (0.6%)	56 人 (35.7%)	100 人 (63.7%)
総合理工学部	378 人 (100%)	107 人 (28.3%)	261 人 (69.1%)	10 人 (2.6%)
生物資源科学部	215 人 (100%)	52 人 (24.2%)	158 人 (73.5%)	5 人 (2.3%)
合計	1,150 人 (100%)	190 人 (16.5%)	811 人 (70.5%)	149 人 (13.0%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(主な進学先) 島根大学大学院、北海道大学大学院、東北大学大学院、筑波大学大学院、名古屋大学大学院、京都大学大学院、大阪大学大学院、神戸大学大学院、九州大学大学院など				
(主な就職先) YKK AP、東芝、日立造船、東京海上日動火災保険、セガ、ヤフー、広島テレビ放送、三菱重工業、住友化学、清水建設、JR西日本、積水ハウス、太陽誘電、中国電力、良品計画、山崎製パン、森永乳業、東京税関、気象庁、東京都職員、島根県職員など				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
法文学部	239 人 (100%)	199 人 (83.3%)	37 人 (15%)	5 人 (2%)	0 人 (0%)
教育学部	173 人 (100%)	158 人 (91.3%)	12 人 (7%)	3 人 (2%)	0 人 (0%)
人間科学部	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	平成 29 年度設置
医学部	162 人 (100%)	120 人 (74.1%)	36 人 (22%)	6 人 (4%)	0 人 (0%)
総合理工学部	404 人 (100%)	310 人 (76.7%)	63 人 (16%)	30 人 (7%)	0 人 (0%)
生物資源科学部	206 人 (100%)	178 人 (86.4%)	18 人 (9%)	9 人 (4%)	0 人 (0%)
合計	1,184 人 (100%)	965 人 (81.5%)	166 人 (14%)	53 人 (4%)	0 人 (0%)
(備考)					
・2016 年 4 月の 1 年次入学者・2014 年 4 月の 1 年次医学部医学科入学者に係る数字であり、2018 年 4 月の 3 年次編入学者・2016 年 4 月の医学部医学科学士入学者は含まない。 ・転学部転学科者については、入学者数は入学時の学部、それ以外は転学部転学科後の学部に計上した。(合計 100%にならない。) ・除籍者は退学者に含めた。					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)

本学の授業シラバスについて、毎年1月から3月中旬の間で、担当教員が作成し、3月中旬以降公表している。なお、松江キャンパス開講授業についてはウェブシラバスとして、医学部開講授業については、PDF版を掲載しており、大学内外から閲覧可能である。その項目については、授業の目標や計画、成績評価方法を含め、学生が準備学修を進めるために必要な項目が設定されている。

また、シラバスの作成にあたっては、次年度のシラバス登録開始前に「学生の学びの質を高めるために—シラバスから始まる授業改善—」を全教員に配布し、シラバスの各項目についてどのような記述をすべきか、FDの観点から指導を行っている。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

平成29年度より、教学IRデータに基づいた修学支援のための学習予測システム「WILL BE」を構築し、構築されたデータの解析に基づいた成績の分布状況の把握をはじめ、学生への修学支援を実施するなどシステムの運用を行っている。

また、本システムを活用して、学生の学修状況をより客観的に把握できるようにし、教員の学修指導をよりきめ細やかに行うため、GPA制度を導入しており、履修登録した科目毎の5段階評価を、(秀=4・優=3・良=2・可=1・不可=0)の4から0までの点数(GP: Grade Point)に置き換えて単位数を掛け、その総和を評価を受けた単位数の合計で割った平均点をGPAとし、学生は学務情報システムにアクセスすることにより、各自でGPAを確認できることとなっている。

卒業については、島根大学学則において在学すべき年数以上在学し、かつ、学部所定の教育課程を履修し修了した者には、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する旨を定めている。

学位授与方針で定める能力・資質については、教育課程の編成方針に反映され、カリキュラムとして体现されている。カリキュラムを通じた学習成果である卒業の認定について、その基準については、各学部規則に規定し、学生に基準を記載した「履修の手引」を配布するとともに、オリエンテーションや窓口等での学生相談などの場で成績評価及び卒業認定の基準に関する説明を適宜行っている。各学部で所定の教育課程を履修(修了)した者に対しては、単位認定・卒業認定のための卒業認定会議及び教授会を開催し、その議を経て学長が卒業を認定している。

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
法文学部	法経学科	132 単位	①・無	25 単位
	社会文化学科	128 単位	①・無	25 単位
	言語文化学科	128 単位	①・無	25 単位
教育学部	学校教育課程	134 単位	①・無	28 単位
人間科学部	人間科学科	130 単位	①・無	24 単位
医学部	医学科	40.2 単位 及び 5,593 時間	①・無	なし
	看護学科	127 単位	①・無	なし
総合理工学部	物理・マテリアル 工学科	124 単位	①・無	25 単位
	物質化学科	124 単位	①・無	25 単位
	地球科学科	124 単位	①・無	1 年次前期、3 年次及び 4 年次各期：25 単位 1 年次後期及び 2 年次各 期：30 単位

	数理科学科	124 単位	㊥・無	1 年次各期：30 単位 2 年次以降各期：25 単位
	知能情報デザイン 学科	124 単位	㊥・無	1 年次各期：30 単位 2 年次以降各期：25 単位
	機械・電気電子工 学科	124 単位	㊥・無	24 単位
	建築デザイン学科	124 単位	㊥・無	1 年次各期：28 単位 2 年次及び 3 年次各期： 30 単位 4 年次各期：24 単位
生物資源科学部	生命科学科	128 単位	㊥・無	28 単位
	農林生産学科	128 単位	㊥・無	28 単位
	環境共生科学科	128 単位	㊥・無	28 単位
G P A の活用状況（任意記載事項）		公表方法： http://www.jimu.shimane-u.ac.jp/web2/gakujoyo/gakusei/		
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）		公表方法： https://www.shimane-u.ac.jp/chiiki/sotugyosei/sotsugyou_chousa		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：
https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/information/education_announce/kyouiku.html
<https://www.shimane-u.ac.jp/campus-life/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
全学部・全学科共通		535,800 円	282,000 円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
（概要） 学生一人ひとりに応じたきめ細かい学生相談、就職相談、修学支援を実施している。経済的に修学困難な学生については、授業料免除制度、各種奨学金制度、授業料等奨学融資制度を整えている。また、学生生活に必要な施設や課外活動施設を整えている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
（概要） 学年毎に開催されるキャリアガイダンスにおいて学生自身が自分の道筋を見つけ、就職・大学院進学も含めた目的・目標を持って学生生活を送れるような支援をしている。インターンシップなど、社会の中で体験的・実践的に学ぶプログラム等も用意している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
（概要） 学生生活を健康で楽しく過ごせるように、専門の医師やカウンセラー（臨床心理士）が、皆さんの様々な悩みごとや相談に応じている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法： https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/information/education_announce/kyouiku.html
